第85回日本循環器学会学術集会を終えて

奈良県立医科大学循環器内科 さいとう 斎藤 よしひこ 能彦

大変光栄なことに第85回日本循環器学会学術集会会長を仰せつかりました。準備の段階で、循環器学の分野だけでなくさまざまな分野が、世界的にも変革期にさしかかっているとの思いから、学術集会のテーマを「NEXT STAGE: Future of Medicine and Community」と決定していた。このテーマはコロナパンデミックの前に決めたものであったが、コロナパンデミックのために文字どおり「NEXT STAGE」となった。今回の循環器学会は、初めてのことであるが World Congress of Cardiology (WCC) と同時開催で、多くの国内外の循環器研究者が横浜に集う予定であったが、コロナの影響で WCC とは WEB を主体としたジョイントシンポジウムが主体となってしまった点は大変残念であった。第85回日本循環器学会学術集会そのものもハイブリッドでの開催となった。2020年以來、世界中で学術集会や、さまざまな会議や研究会が virtual 開催となったが、学会の参加者は、対面で開催される学会の良さを感じつつも、WEB の利点も十分に実感した2年間であった。このように考えると、コロナが終息した後でも、WEB 配信と対面開催がどのような割合になるかは別として、ハイブリッド開催が主流になると思われる。このような観点からも、後日第85回日本循環器学会学術集会が一つのターニングポイントとして理解されるであろう。

有料の学会の参加者数は13,307名、招待者学会関係者を合わせて合計16,030名の方が参加であった。この数字は過去の学会と比べ大きな差は認められなかった。ハイブリッドであり最も費用がかさむ運営形態であったが、費用をほぼ例年なみに抑えることができたのは、これまでの学会より効率的に運営しようとする学会事務局や PCO 皆様の努力の賜物であった。ただ、一般演題の応募数は、ここ数年減少気味であるなか、85回では84回からの期間が短かったということも影響した可能性はあるが、1,000題ほど減少しており、この要因は今後真剣に考察を加える必要がある。循環器専門医取得あるいは更新のための単位数稼ぎだけの学会にならぬよう、また、循環器専門分野に特化した多くの関連学会も存在する中で、循環器学会のあり方を真摯に考える必要がある。

今回の学術集会では、オープニングには吉野 國軸山 金峯山寺 管領 五條良知様による、コロナ終息を願った「とも祈り」(護摩行)の吉野山からのライブ配信で始まり、真下記念講演に本庶佑先生、WCC の Special Lecture として山中伸弥先生のお二人のノーベル賞受賞者、そして MIKAMO Lecture にはテキサス大学の Eric Olson 先生をお迎えした大変贅沢な特別講演が企画された。また、「NEXT STAGE: Future of Medicine and Community」のテーマのもと、今後の循環器学を予測する意味で、特別企画「医療と健康の MIRAI」を企画した。今後特に重要になるであろう、ビッグデータ、人工知能、リハビリ、行政との連携、企業との連携などをテーマにした4つのシンポジウムと2つの特別講演、さらには AI ホスピタルという virtual イベントの開催、さらには Mobile SCOT がリアルで展示された。プログラム委員会の企画であるプレナリーシンポジウム、シンポジウムのほか、会長校企画として、15の特別講演、50以上の特別企画シンポジウムなどが企画された。また、今回は、若手の U40心不全グループや ISHR の U45のメンバー、さらには Japan Cardiology Clinic Network (JCCN) の皆様に企画の企画の段階からご参加いただき、魅

表1 各セッションの参加人数

(3月26日～3月31日までの人数)

ランク	セッション ID	セッション名	テーマ名	視聴者数 (ユーザー ID 個数)
1	安全	日本循環器学会 委員会セッション (医療安全部会)	医療安全に関する講演会	5,193
2	倫理	日本循環器学会 委員会セッション (倫理委員会)	倫理に関する講演会	4,558
3	E I-1	教育セッション I-1	虚血性心疾患の治療と予防	3,602
4	Mashimo	真下記念講演	本庶佑先生特別講演	2,971
5	WCC Special	WCC Special Lecture	山中伸弥先生特別後援	2,670
6	E I-2	教育セッション I-2	不整脈診療の最新の進歩	2,265
7	Opening	Opening Ceremony		2,155
8	E II-1	教育セッション II-1	心不全診療における血行動態の評価と理解	1,977
9	ガイドライン部 会 1	日本循環器学会 委員会セッション (ガイドライン部会)	ガイドラインに学ぶ 1	1,725
10	WHF-JS1	WHF-JCS Joint Symposium 1	Cardiovascular Diseases and COVID-19	1,379
11	MIRAI1	医療と健康の MIRAI 1	リアルワールド・データの活用の未来	1,297
12	MIRAI2	医療と健康の MIRAI 2	我が国における AI ホスピタル構想	1,262
13	ガイドライン部 会 2	日本循環器学会 委員会セッション (ガイドライン部会)	ガイドラインに学ぶ 2	1,149
14	SS17	会長特別企画17	脳卒中と循環器病克服 5 年計画その 1: 第二次 5 年計画と脳卒中・循環器 病対策基本法	1,098
15	TP15	トピック15	新型コロナウイルス感染と循環器疾患	1,085
16	第3回全国医療 AI コンテスト	第3回全国医療 AI コンテスト	特別講演会	1,084
17	SY02	シンポジウム 2	Atrial functional MRをどう治療するか?	1,026
18	SS11	会長特別企画11	COVID-19: 現状と対策, そして今後の 課題	1,008
19	学術集会プロ ラム部会 3	日本循環器学会 委員会セッション (学術集会プログラム部会)	症例から学ぶガイドラインセミナー 3 【2021年 JCS/JHFS ガイドラインフォー カスアップデート版 急性・慢性心不 全診療】	996
20	Mikamo	Mikamo Lecture (Sponsored by Japan Heart Foundation)	Eric Olson 先生特別講演	982
21	CL	会長講演		978
22	E III-2	教育セッション III-2	蘇生ガイドライン22の解説	940
23	RT05 (U40)	ラウンドテーブルディスカッション 5 (U40)	U40心不全ネットワーク企画セッショ ン Pros and Cons—超高齢化社会におけ る心不全治療の最適解はあるのか?	925
24	学術集会プロ ラム部会 6	日本循環器学会 委員会セッション (学術集会プログラム部会)	症例から学ぶガイドラインセミナー 6 【2021年改訂版 循環器疾患における 緩和ケアに関する提言】	907
25	PL01	プレナリーセッション 1	Big Data による新たな evidence	887

ランク	セッション ID	セッション名	テ ー マ 名	視聴者数 (ユーザー ID 個数)
26	ガイドライン部 会 3	日本循環器学会 委員会セッション (ガイドライン部会)	ガイドラインに学ぶ 3	874
27	MIRAI3	医療と健康の MIRAI 3	循環器画像診断における AI 活用の最前線	865
28	学術集会プロ ラム部会 2	日本循環器学会 委員会セッション (学術集会プログラム部会)	症例から学ぶガイドラインセミナー 2 【2021年改訂版 循環器超音波検査の 適応と判読ガイドライン】	858
29	EII-2	教育セッションII-2	心疾患と妊娠出産	839
30	RT03	ラウンドテーブルディスカッション 3	心房細動合併心不全の治療戦略	836
31	CS4	チーム医療セッション シンポジウム 4	高齢者の循環器薬物治療を考える	835
32	授賞式・閉会式	授賞式・閉会式		822
33	LB1	Late Breaking Clinical Trials		807
34	SS45	会長特別企画45	高齢心房細動患者に対する治療をどう するか？	801
35	TP17	トピック17	腎機能を考慮した利尿薬の選択	800
36	心臓財団	日本心臓財団シンポジウム	デジタル循環器学	798
37	SS36	会長特別企画36	脳卒中と循環器病克服 5 年計画その 3 : 今後の医療体制のあるべき姿を考える	787
38	JS01	日本循環器連合ジョイントセッション (日本心臓リハビリテーション学会)	心臓リハビリテーションを循環器病対 策に活かす～健康寿命の延伸を図るた めに～	779
39	TP03	トピック 3	SGLT2 i はなぜ心不全を予防し治療で できるのか？	778
40	LS01	ランチョンセミナー 1 大塚製薬	心不全の診療・研究の課題と将来展望	744
41	ME04	ミート・ザ・エキスパート 4	右心不全の評価と治療	744
42	LS18	ランチョンセミナー 18 大塚製薬	最新の心不全治療～エビデンスをふま えて ARNI を活かすには～	743
43	RT13	ラウンドテーブルディスカッション13	ガイドラインの変更を受けて PCI はど のように変化しているか？	694
44	TP01	トピック 1	循環器の遠隔診療	691
45	ME01	ミート・ザ・エキスパート 1	失神を極める	687
46	LB3	Late Breaking Cohort Studies 2		672
47	DE2	ディベート 2	右心不全に三尖弁治療は有効か？	669
48	学術集会プロ ラム部会 1	日本循環器学会 委員会セッション (学術集会プログラム部会)	症例から学ぶガイドラインセミナー 1 【2021年 JCS ガイドラインフォーカス アップデート版不整脈非薬物治療】	659
49	DE3	ディベート 3	心房細動に対してカテーテルアブレー ションは 1st-line 治療になるか？	657
50	SY01	Symposium 1	Present and Perspective of Continuous- flow Ventricular Assist Device in the Coming Time of Destination Therapy	620

力あるセッションを多く提案いただいたことも特徴であった。また、女性座長の割合は全体で26%に達した。これはダイバーシティ委員会の皆様が、座長リストや座長の手引きなどを作成してくださったことが大きかった。多くのセッションへの参加状況のログを取っており、その結果どのような職種の方がどのセッション、どの展示に参加されたかがすべて解析可能となるようにした。その結果上位50セッションのリストを表1に示す。今後の学会運営に利用いただければ幸甚である。

以上、大まかな振り返りであるが、やはり日本循環器学会学術集会は85回の歴史のある大規模で、格の高い学術集会である。多くの企業も循環器学会への協力には非常に前向きであり、今回もコロナ禍の中でも快く支援していただいた。この誌面をお借りして御礼申し上げます。企業と循環器学会の win-win の形をより考えていくことが、本学会の発展につながることを信じている。また、医療と健康の MIRAI 企画では、SIP により AI ホスピタル事業に選ばれている慶應義塾大学の陣崎雅弘教授に、多大なご協力を賜りました。衷心より拝謝申し上げます。

著者の COI (conflicts of interest) 開示：

Honoraria: Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., Novartis Pharma K. K.

Research funding: Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation, Medtronic Japan Co., Ltd.

Subsidies or Donations: Daiichi Sankyo Co., Ltd., Roche Diagnostics K. K.

*

*

*